

● 小山乃里子の

# 華麗なる食べある記

△19▽ 料亭 花くま 蔭

△20▽ レストラン フック花隈店

□ 花くま 蔭

★一品一品への心くばりは懐石料理の真髄

花隈の料亭といえは、明治の元勲の名前などがすらすら出て来る雰囲気があり、老舗というイメージがどうしてもつきまとうが、この「蔭」は、その中では格段新しい。まだ六年にしかならないという。

それなのに、かなり食通の間で知れ渡っているのは、やはり料理の美しさとおいしさのせいだ。美しいというコトバを思わず使ってしまったが、日本料理の特長は、出された時の、その一瞬目に入ってくる、姿形の美しさにあると思う。その思いは、ここの懐石料理の最初に出された、ぎんなんと、くりせんべいに、そして箸置きにまず見たのだった。粟のいがの上に、粟を薄くうすく切った揚げたせんべい、小さな器にもられた銀杏の上に、からませた二本の松の葉、箸置きがこれまた松葉をたばねて二ヶ所を縛ってあるのだ。こんな心のこもった箸おきをみたことがあったろうか。

九月に出される料理には、夏を惜しむ心から名残り料



理、九日の重陽の節句を祝って菊料理、この二種類がある。まず菊料理。白い菊の花びらの中に、鯛のおさしみがかくれるようにのっかっている。昔、この菊の花の上に綿をのせ、露や香りを綿にしみ込ませて、その綿で身体をぬぐったり、酒にしませて飲んだりしたものだという。長寿のまじないといっせよしまえばそれまでだが、そんな、きせわたの話など教えてくれる人も少なくなつた。鮎料理が出る。これが夏の名残りなのだという。鮎の菊花むし。菊の花びらが鮎の上にハラハラとかかり、菊の花を食べると美しくなると言われ、これはとても熱心にいただいた。無花果の田舎煮、甘くもなく、といてすいわけでもなく、実にあっさりした風味。鴨のほう葉焼きが出て来る。小さなコンロに炭火がはいこり、ほう葉の上には、鴨の肉と玉ねぎの薄切り、色づく程度に焼けたものを酢みそで食べる、この辺から季節は夏はなれ、秋も深まった頃といった感じ。そして「養揚げ」で私の感心は驚嘆に変った。海老のころもにまいてあるのは、そうめんだと思っていたのに、なんと細く細く切ったじゃがいもであり、それをまぶして揚げてあるのだ。うーん、うまい。しょうしやな座敷の雰囲気合



▲点心。ほんとうの懐石を気軽に味わえる  
一品一品に心をくばり、目で味わい舌で味わえる日本料理  
は総合技術ですと話す料理長の半田博さんと女将さん



最近、花隈が変わったという噂を聞く。どう変わったかといえば、マンションがたくさん建ったという。それなら電車の中からも、車で通りかかっても見えている。ところがそのマンションの一階に、素敵な店が色々できているのだという。そういえばもう久しく花隈を歩いていない。花隈公園の上で、大きな声でうたをうたうたって茂みの中のアベックを驚かせたのはもういつのことだったか。なるほど、色々お店もできてるなあとキョロキョロしながら歩いてみた。たしかこの辺り、治作があった筈。アレレ、無い。ヘエーとびつくりした目に、そのあとに建ったマンションと、道路からぐつと奥まったれんがの壁が入った。足もとれんがである。二年前にオープンしたというフックの花隈店がここである。一歩中に入ると、渋いマホガニー色をした壁と足をやさしく包むじゅうたんの色といい、外の車のけん騒はここには無縁のもののようにだ。聞けばマスターの岩田さん、趣味がこうじ

★静かな坂道のダイナースロウンで良質の神戸ビーフ

## □ フック花隈店

懐石料理 / 13000円 / ちょうたん弁当 / 18000円 落手桶け / 25000円 點心 / 35000円  
生田区花隈町 番 382-0181 正午 / 午後9時 (オーダーストップ) ただし午後2時 / 4時休む 日祝休

せようと、かなり上品にふるまっていたのに、つい出たコトバがこれ。あっ、いけない、メモを見落していた。萩どうふもあつたつけ。ゆずの香りと枝豆の緑の美しさ。そして、かにの飯むしというのも食べたんだ。輪島ぬりのおぼんやおわん、簡型のお茶碗や皿の一枚一枚に、実に神経が行き届いている。さすが食道菜からこの道に入ったという女将さんと、包丁一筋二十一年の料理長の息がびたり合ってたって感じて、久し振り心落ちつかせた一時だった。

## フック花隈店



▲炭火で焼き上げたステーキ

肉のサシ미를オードブルに召し上る方が増えました、と岩田夢隆さん



てというか、室内設計まで一人でやってしまったという。

オードブルに肉のさしみをいただく。にんにくのすりおろしたもの、しょうがのすりおろし、それをほんの少し小皿に取り、しょう油をたらしてちよいとつけて食べる。とろりとやわらかく、いくらでも食べられる。さらした玉ねぎが適度に甘い。新鮮なへれ肉を使っているが、ステーキ用とはもちろん別のものである。薄い膜に包まれて、大切に取り出された肉を鋭い包丁が一枚一枚と切っていく様を、なぜか頭に思い描いた。

スープは私の好きなオニオングラタンである。いつものようにたっぷり粉チーズを入れ、ふわふわ浮いてくるのを舌にからませるようにして味わう。チーズがやわらかいおもちのようになり、実においしい。

メインディッシュはステーキである。炭火で焼き上げたへれ肉にくっきりと金網のあとがついて、その網目の一つ一つから香ばしい肉の香りがただよってくるようだ。ステーキの上にかけるドミグラス(肉汁)は、一週間煮つめて味を深くしたものとかが、このごろこんなお店は少なくなった。ステーキを一切れ口に入れる。さすが、フックといえばステーキというイメージ通り、よりすぐった肉の良さが味ににじみ出してくる。けれどこの花隈店は、ステーキハウスではない。フランス料理の看板通り、魚料理その他メニューは豊富だ。ただ、私がお肉を選んだまでのこと。フランス料理の面目はデザートに出されたシャーベットにあらわれた。店特製の。実に口当りの良いワインレッドのかたまりは、店の雰囲気のように上品で、そしてゴージャスだった。

ステーキディナー(A) / 5500円 ローストビーフ(金曜日のみ) / 4000円 / エスカルゴ / 1300円 伊勢エビチズ焼 / 4000円 / 伊勢エビチズアメリカン / 4000円 /

花隈店 / 生田区下山手通5丁目26 ☎35115255 午前11時~午後9時 第3日曜休

東店 / 生田区栄町通1丁目5-3 ☎32113207 午前11時~午後9時 日曜休



動物園飼育日記 — 167 — 亀井一成



いま、初孫、銀太と秋は中国に



「それは、神ちゃんがかわいそうや、せっかくのお嫁さんを引き離してまで、中国にあげんでもええやないか。亀井さんの弁明を聞きたい。」

去る八月二十九日付各紙にチンパンジーの銀太(三才)と秋(四才)の二頭が中国天津市水上動物園に贈られるニュースが掲載されたその夜、ボクの家が電話が鳴りっぱなし、翌日には抗議の手紙さえ届いた。

正直いってお父ちゃんであるボク、どの子も、区別なく可愛いし、誰にもあげるものか、と居直ろうとする親心と、国際交流という政治、さらには各地の動物園で



初孫の銀太(3才)を神ちゃんと秋ちゃんの住みかにも同居させたところ、ご覧のように、銀太<写真・小柄な方>と秋ちゃんが大変仲睦しくなり揃って天津市水上動物園へ。

の繁殖による二次的とはいえ、野生保護につながるという自己へのいいわけとが身体中でぶつかりあって、受話器を手にしたまま、「はい、あのー、それはですな」と、しどろもどろ、明解にお答えできなかった。

もちろん、会議の席上で上司に、外国から買いつけたものを差しあげるなど、それでは失礼ではありませんか同じ差しあげるのなら、神戸育ちのものを、と銀太と秋の中国行を了承したのも父ちゃんであるボクだったからだ。

#### 「メス秋ちゃんのこと」

生後間もなく母親を失くしたオスの神ちゃんを人工で育てた四年めにあたる五十三年十月、東アフリカ生まれのメス秋ちゃんをお嫁さんにと輸入した。それは丁度秋の頃、そこで秋ちゃんと名づけてやった。

チンパンジーの性教育は、群の中で親たちの姿を見ながら、真似ていくという学習がなければ、インポテンツになってしまう確立が非常に高い。本能だけでは本交尾ができない哀れな生涯を過ごすことになってしまう。

しかも、学習年令にも問題があるので、できるだけ早い時期に群生活させ順次学習を受けさせることが望ましい。そこで神ちゃん四才、人間でいえば八才。小学生高学年の頃に秋ちゃん三才を迎えてやった。野生育ちの秋ちゃん、まだ三才。人間では六才という幼児年令でありながら、三年間の野生の学習を十分に身につけており、初対面の神ちゃんにお尻を向けたことから始まった、神ちゃんとの「同棲生活」が、ほのぼのとした話題となつて茶の間にニュースとしてとどいたこと、つい一年前のことだった。

抱きあったり、後ろからマウントしたり、嫁さんの秋を後ろにさがらせ、オスらしくいたずら者に立ち向った神ちゃんの男性への成長は一年間で著しく育った。いや、父ちゃんも入れこめないチンパンジー本来の対話が幾つもあつたらう。だからこそ、

「神ちゃん近頃、荒々しくて、いっつも可愛いことあれ

へん」などと、言われるようにもなった。

「少年少女期の二人？は未婚だった」

ところで、後ろからマウントを見せてた神ちゃん、ほんまに結婚してたのだからか。

ここに至って父ちゃん、えらい弁明してはる。と思われようが、神と秋との経過を少しばかり記しておくことにする。

結論から言って、神ちゃんたち、性行動の真似ごとは見られていたが、彼等の性成熟は満八〜九年。あと三〜四年しないと、メスの生理もはじまらないので、もちろん繁殖もずっと先のことである。となれば、つまり、神と秋との生活は、将来のお嫁さんとの同居生活にすぎなかったことになるわけで、もはや結婚していたかと思われる、親馬鹿的父ちゃんの発言が、少なからず、神ちゃんファンの皆様に激奮させる結果にもなってしまったことも合わせてお許し願いたい。

さらに秋ちゃんほんまに神ちゃんが好きだったのだろうか。同居十カ月が過ぎる頃から秋ちゃんの体重の増加が目立ち、神ちゃんと区別し難いぐらいに二人？は成長した。ところが、その頃から、神ちゃんの荒つぽさが目立ち、時折り激しく咬みあつて争い、秋の背に咬み傷が途えず毎日のように軟膏を塗ってやる一方、ケンカのさなかとびこんで行くこともあった。

「秋は銀太に抱かれ、神は知らん顔」

神と秋二頭よりも、こうした少年期にこそ、同居させるチャンスだろうと、初孫の銀太（三才）も同居させ、最も小さな三頭という群作りを前々から考えていたので、この際三者を同居させて見ることにした。

銀太を入れると、グアノと声をあげて、神も秋も銀太の方へ走り寄っていったが、神ちゃんは、もう秋が来るまでに何度も同居していた仲だから、さほど興奮もしない。何だか狭いオリの中を三頭がくるくるはい回るばかり、と、暫くして事が起こった。先頭の銀太の尻をさかんに臭ぐ秋ちゃんに、突然駆け寄った銀太、なんと、真

正面から、まことにうまく秋に抱きつき、そのまま座りこんでしまったのである。

それは丁度秋と神が、こんなに仲良くなりました。と紙上に載った当時と全く同じシーンの再現だった。そうした秋と銀太との仲の良さにも知らん顔の神ちゃんに少なからず哀みを感じる父ちゃん、神、あんな秋なんか放つといたらええ、もう暫くしたら日本生まれの子育てを覚えたええメスを迎えてやるからな。

「いま、神戸生まれのキリンと共に」

そうはいっても、父ちゃんの心の中には、どの兎もみんな王子動物園に生涯飼ってやるべきだ。しかも群作りを時間をかけ、近い将来には二〇〜三〇頭のチンペンジ一村を神戸に作ってやりたいという思いがある。

いや、人間に最も近い類人猿の群家族の生活を探ることによって。我々人類の祖先の生活がのぞける。いまや「人類の祖先を探る」という世界的な大テーマを、こうした展示飼育の中からも探ることがどれほど大切なことか、つくづく思われてならない。

複数のオスに複数のメス、常に子持ちの母ザルとリーダー格が、群の中心部に集まり、夜には、ひとりひとり、直径1m、ダンブのタイヤくらい寝床を木の枝や葉で作る、仰向けに眠る。こうした野生そのまま何十頭

もの家族群を見ていた

だく動物園のすばらしさは夢ではない。さらに、銀太と秋の子が日本に里帰りして来るに違いない。その頃にはきつとチンペンジー村の村長に神ちゃんがなっていることだろう。

銀太も秋も、長生きするんやで。△王子動物園学芸員／写真も▽



銀太拜 元氣に行って参りまあ〜す！



## 熟年・バーバリー。

1856年、スコットランドはハンプシャーに誕生。  
英国王室から騎士と騎馬のマークを  
授与された正統派ブリティッシュルック。



**Burberrys**

# たかはしもう笑品集

ニュース漫画「神戸新聞」笑点「V」を  
必死のパッチで描き続けて七、〇〇〇回（二〇年）  
「海軍めしたき物語」が好評の

内容 「最新カラーマンガ」（9頁）

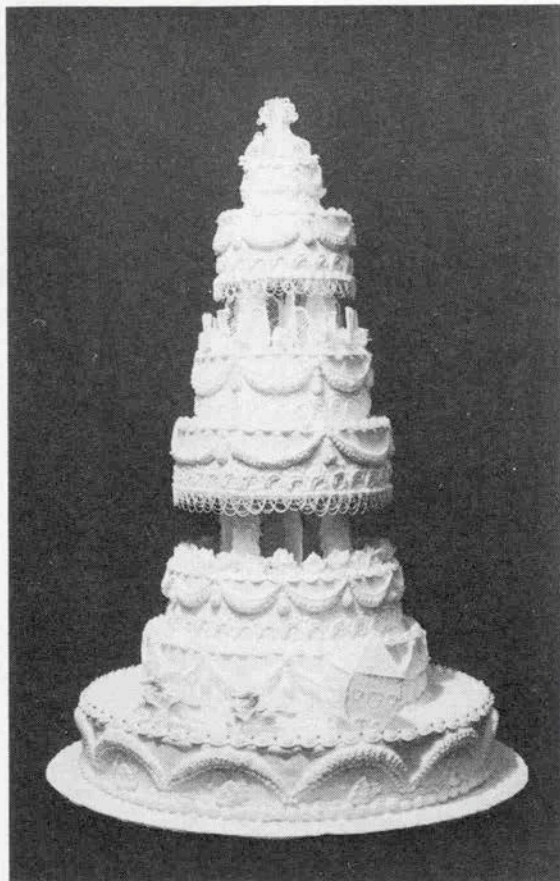
「笑点20年」（36頁） 「似顔絵100人」（54頁）

「ニュースマンガ家の一日」（4頁）

二、五〇〇円  
【送料二〇〇円】

お申込みは「たかはしもう出版会」（月刊神戸っ子編集部内）

送金方法／太陽神戸銀行三宮センタービル支店普通預金一五二七〇四「たかはしもう出版会」  
または月刊神戸っ子あて現金送金してください。



♥ ウェディングケーキのご予約承ります ♥

ドイツ菓子

**コロンバン**

本店/トアロード・331-9723 南店/トアロード・321-3114  
鯉川筋店/332-5406 元町店/341-7094 センター店/332-4054 他

ソフィスティケートドレディへ



顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

**服部メガネ店**

神戸・大丸前 TEL 331-1123



# ★神戸の集いから

★神戸市政府熱烈歓迎  
中国京劇院訪日団



孫悟空役の李光さん(中)と陳舜臣夫妻、神戸華僑のミセス達と京劇院団の人々

の友人の心こもった挨拶は、数年來の友好関係により、北京から天津に來たような「気分」と返礼、神戸華僑の奥さん、コーラスに次々

と団員が唄い、二百名近い会場はなごやかな交流会だった。

★仲間が声援、高橋孟「海軍めしたき物語」出版



左より、筒井康隆、川野・田辺ご夫妻、高橋孟さん

ついに出版！もうさんの「海軍めしたき物語」(新潮社)の出版を祝って仲間が、もうさんを囲む集いを九月一日フアーストパブで開いた。月刊誌「面白半分」に27回に亘って連載され、火つけ役の田辺聖子編集長の後をうけた筒井康隆編集長、川野純夫、陳舜臣、阿部牧郎、眉村卓、織田正吉、竹田洋太郎さんらに、戦友の町田幸重さんと新潮社の森・伊藤貴和子さん夫妻、講談社の佐藤腰子さんらも東京からかけつけ、マカンブツサールの女性達も加わって約20名が参加。十一月三日には東京で初の出版記念会が開かれる。

★よーやる!

79あいとなくく祭り

八月三十一日夜、グルーブあいとなくくが主催してニューポートホテルでトロピカルナイトを開いた。小池管長のスーパーマン。新谷瑠紀、竹村まこちゃんのハワイアンダンス。清村のアラビアの踊り。仮装コンテスト。福引き大会ディスプレイになって雪ならぬ雪のかたまりが降った。夏の終りの底抜けお遊び大会だった



新谷瑠紀、竹村まここのハワイ娘も登場

恒例の「8の会」が八月十八日の夜、「8若の会」が十九日の夜、小原会館の庭で開かれた。「8の会」には物故会員を人間文化財として紹介。司会役の竹中郁さん曰く「この会は静かに語ろう」と大人の雰囲気。藤井伝三さんのバントマイムが花を添え、8若の会は二紀会のメンバーが賑々しくハッスル。京阪神間の文化人が集うこの会も定着している。



夏の夜に盛況8若の会

★8の会・8若の会  
夏の二夜に集う

## ♥小泉パーティご案内

小泉パーティは

結婚を希望する男女にお見合や愛好会によって健全なご交際のお手伝いをいたします。身元の確かなことは良縁の第一条件です。身元の確かな方々の会員制の集いです。

・入会金 10,000円・年会費 10,000円

＜秋の結婚シーズンを迎えて＞

ご婚礼のお買物のご相談は

神戸マリッジへ(無料)

美しいご婚礼のお買物をご予算に応じてプランニングし、神戸の一流の専門店をご紹介します。

＜協賛店＞

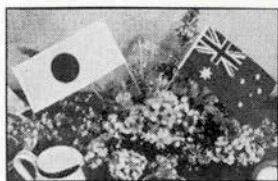
家具の江戸屋・宝石のタジマ・ふとんのつゆき紳士服のニッケショールーム・和装のみよしや旅行の日本旅行・他各種の専門店

小泉パーティのご案内・入会書類ご希望の方は  
事務局 〒650 生田区北野町3丁目10-2  
淡島マンション105号 ☎078-242-0333 小泉正巳  
お問合せ、ご連絡は午前中又は夜間に。

●神戸を福祉の町に△70▽

# 車イス 豪州をゆく

橋本 明△社団法人「家庭養護促進協会」事務局長▽



訪問記念撮影。右端後ろがマクレオド氏  
(写真いづれもシドニー郊外のセンターインダストリーズで、本多正男氏撮影)

昨年の九月下旬、オーストラリアのシドニーからある障害者のグループが日本を訪れた。このグループはシドニー郊外に身障者の福祉工場「センター・インダストリーズ」を創設したマクレオド夫妻と、その工場で働く重度障害をもつ人たちで、神戸も訪れ、阪神間の身障者と交流を深め、またマクレオド夫妻の人柄と講演は関係者や身障児をもつ母親たちにも大変深い感銘を与えた。この日豪両国の福祉交流の様子は昨年の本誌11月号で紹介したが、このマクレオド夫妻一行の来神がキッカケとなり、神戸の身障者や関係者たちが、話に聞いた夢のような福祉工場を自分の眼でぜひとも見たい、そしてこの工

場のことをもつと知りたいという気持ちから、一行の来神をお世話した兵庫県肢体不自由児協会が中心となってこの夏、念願の「日豪福祉交流旅行団」(大森忠男団長)が実現した。

一行は身体の不自由な青年十四人と、医師、介護人、スタッフを含めて25人。8日間の短い旅ではあったが、南半球の大陸を訪れて多くの人に出会い、参加者はみんな数え切れないほどのたくさんのおみやげを胸の中にしまつて帰国した。

一行が発った日本は真夏だったが向こうは真冬。短い期間に福祉工場、授産所、養護学校、リハビリテーションセンターなどを自らの足でまわり、同じ仲間たちの自立して生きている姿を自分たちの眼で確かめてきた。訪問の中心は何といつてもシドニー郊外のアランビーハイツにある「センター・インダストリーズ」だ。



歓迎昼食会で

マクレオド夫妻を中心に障害児をもつ親たちが自らの力で34年前に創った小さな作業所が、今では健常者約五百人、重度障害者約三百人、計約八百人もの従業員をかかえる世界的に名を知られた一大企業に発展したのはまさに奇蹟と

いっていい。電気通信機器の部品などを主に製造しているが、他の民間企業と比べて少しも遜色のない成果をあげている。工場には車イスの下肢障害者が多いが、中には両手足とも麻痺している人は頭に取りつけた細長い棒でタイプを打ったり、他の仕事もしているのに驚かされる。一行のある身障青年は「人間を機械に合わせるのではなく、一人一人の人間に機械を合わせる」という考え方に大変感銘をうけたという。

ちょうど一行がこの工場を訪問していた時、日本の富士通から電報が入り、富士通とセンター・インダストリーズの間に電気部品の製造で長期契約が結ばれるという嬉しい知らせが入った。さっそくマクレオドさんは一行にこのニュースを伝え、まっ昼間から水割りで乾杯をした。日本の企業がこの会社と契約を結んだのはまだ富士通一社だけという。

この工場の訪問では、昨年神戸を訪れた車イスの障害者との再会を喜び合い、話はずきなかつた。

ブリスベンでは身障者の授産施設も訪れた。この小さ



お別れパーティで話はずむ

な授産所は箱詰めなどの手作業をしており、神戸の共同作業所などといいたくして変わらない印象を受けたという。

センター・インダストリーズでは何もかも新鮮な驚きでいっぱいだったが、この小さな授産所では身近な親近感をおぼえた者が多かった。

そしてセンター・インダストリーズがオーストラリアでもまさに例外的な存在であるということを知ることができた。大森団長は、「この小さな授産所を見ることができてよかったです。日本の青年たちが、オーストラリアにはみなセンター・インダストリーズのような素晴らしい福祉工場ばかりがあると誤解してはいけませんからね」といい、「それにここでも身障者が近くの市場などへ買い物に行くと、へんな眼で見られることだってあるようです」とつけ加えた。どこの世界にも差別や偏見はまだまだなくならないようである。ところでこのオーストラリアでは、ミス・オーストラリアの美人コンテストがこの工場の主催で毎年開かれるという。もともと脳性マヒの子どもの募金活動のために始められたのだが、この美人コンテストは一般の人たちの眼を福祉に向けさせるのに大きな役割を果たしているようだ。

この旅行に参加したある青年は、日本で福祉といえど何かを「してあげる人」と「してもらう人」に分けてしまふ感覚があるのが残念だといひ、大森さんも「日本には『共に生きる』という考え方がまだまだ育っていませんね」と指摘する。これを意識してかどうかわからないが、この夏ある日本のテレビ局が展開した24時間テレビチャリティキャンペーンのテーマが「Let's live together!」(共に生きよう)であった。十億円近い寄付がよせられたそうだが、日常の生活の中で本当に「共に生きる」という思想がにじみでてくれば日本人の福祉ももつと変わってくることだろう。

オーストラリアを訪れた青年たちが学んだ貴重な体験は、これからの日本の福祉活動の中で大いに生かしていつてほしいものである。

六甲高山植物園



# ホラ、植物たちの囁きが

江頭 越子 〈詩人〉



花をめぐる筆者

作られた風景の中におかれても  
確かに生きた 花です

六甲山には何度も登りながら、六甲高山植物園に行くのは初めてであった。昨夜からその時間の来るのが待遠しい。最近、妙に山や海、草や木に会えるということに心が弾む。

都会のマンション住いが長いと土や植物とのかかわりが遠く、求めていかなければ自然ははるか彼方にあるものと思えない。

午前十時、芦屋川より国道二号線を走って六甲山に向う。国道沿いの樹木も、あらためて見ると点々と緑が続いているのだけれど、この暑さと排気ガスで青息吐息なのに「俺は木なのだぞ」と懸命に立っている感じがする。

日頃、自動車で走っている時、その樹木のみどりを全然美しいとも何とも感じていなかったことに気づく。石屋川沿いに山に向って、カーブの多い道を走る。さすがここまで来ると空気も透明になり、まだまだ自然はたっぷりあるなあーと嬉しくなってしまう。六甲山を登り切ったあたりにはちらほらと案内板が見えて、観光地六甲の一面が見えて来る。

エーデルワイスという喫茶店に着く。ここが高山植物園らしい。というの表示板を見ないと植物園というところが判らない。エーデルワイスという喫茶店の横が入口で、あたりの自然とうまくとけ込ませて植物の谷は作ら

「花という」

土のぬくみを知り

水の潤いを受け

太陽の厳しさにさらされて

咲くものです

作られたものでなく

花の草の木の意志によって

咲くものです

自然の中から湧きあがってくる

力におかされて生まれたものです

どんなに汚れた手で折られても



耳を澄ませると、植物のささやきが聞こえて来ます

れてあった。牧野富太郎博士の指導のもとに、昭和八年開園されたという広さ五万平米の中にヒマラヤ、ヨーロッパ、アルプスの植物四百種、六甲自生の植物が八百種あるという。これだけの高山植物を育てている所はめずらしいと、園内を案内して下さった主任さんの説明でした。最高気温二十七・五度。それより十五度位下ることがあるらしい。園内はそれぞれの植物にあった場所を作り、丁寧に植物の名前が表記されていて、その名前が木や草の姿にピッタリなので思わず笑ってしまいます。園の一番の見ものは「ロックガーデン」と「ヒマラヤ植物園」。高山の花畑を再現して岩石を主体にして作っており、ここの花の女王は「コマクサ」。ピンクの透明な小さな花が今にも溶けてしまいそうに苔のような葉と共に人々の目を集めています。高山植物はその気候と風土に順応して、背は小さいけれど根を深く地におろして這うように生きています。日本に連れて来られたヒマラヤの

植物達は人工的に水を与えられるために、根は短かく浅いそうです。六甲山の気候に自身を合わせて、命あるものが生きのびようとする知恵というか、自衛の本能のしたたかさを見る思いがします。

生きるというのは

自分の根をはることだ

自分に合った土を探し水をかけ

根をはることだ

園内を全体的に見ると、よくまとまっています。皇太子様がいらした時に作られた「プリンスブリッジ」という白い橋が池にかけられています。その横が入口を真向いに見る一番眺めの良い場所です。ここで、じっと坐っていると植物の香りやざわめきが聞えてきます。園内はたしかに人工的に作られているのですが、周囲の樹木が長い年月に育って、鳥も虫も、自然に住んでいます。雑草も種を飛ばして名もない草が生きています。こんなに自然の中にすっぽりと入り込める所があるとは、知りませんでした。人々は此処でだけはのんびりとした顔をしていて、いつまでも此処にいたいのに……。木々の間から坂を登る車のすぎましいエンジンの音が、人と車のひしめく都会に帰っていかなければならない気持ちをうながしています。

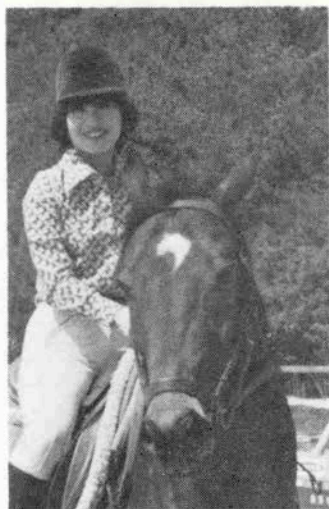


六甲山100コース

△その24▽  
神戸市立六甲山牧場

# 秋空の下、愛馬に乗って

島本 直子△画家▽



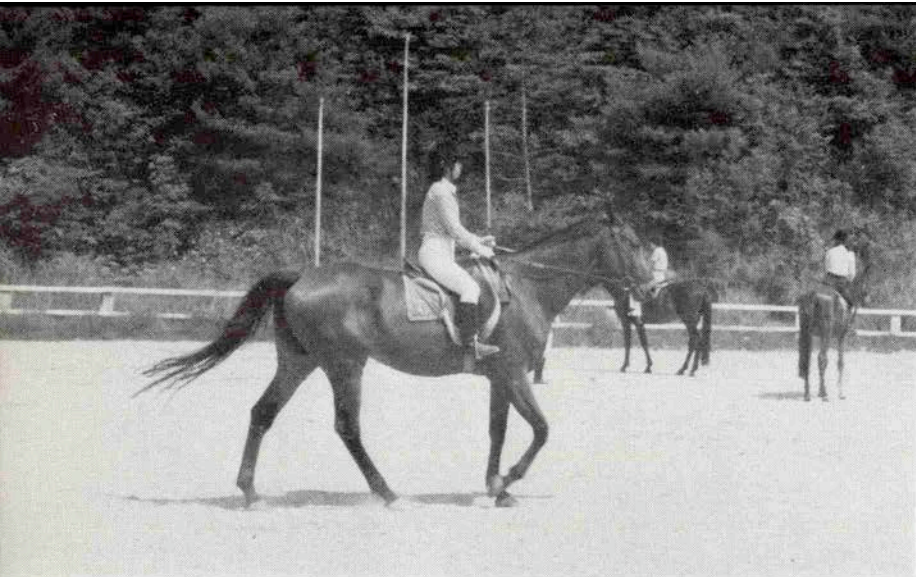
愛馬とともに

日々を送っていた。何とか彼女の余生を牧場でのんびり放牧でもしてやれなかったのだろうか。

動物の直感というものが、または本能というものには時に何か恐ろしいようなものがある。数年前、キオパークという馬が夜中に、馬房の柵をくぐりぬけ厩舎で他の馬を噛んだりしたことがあった。骨折して、起き上がる事も出来ず、苦しそうな状態であるのに、彼は私達が刈ってきた青草をものすこい勢いで食べた。それが本能というものだろうか。自分の死期が近づいてきているのを知っているからこそ、少しでも生延びたいと青草を食べたのだろうか。育晴——彼女も又、果物好きだった。彼女の為に差出した果物をベロツと食べたと言う。そして、一頭に人參をやると嫉妬する他の馬達がその時はおとなしく彼女の様子を見守っていたと言う。馬は人間より命が短い。だから仕方ない事かもしれないけれど、そのような事を、目前に見たり、聞いたりする度に、一頭ずつ馬が減る度に、私は『もう、馬に乗るのはやめよう』と決心する。その決心が崩れるからこそ、続けているのだけ……。育晴の骨の一部分は、牧場内にあるりんごの下に埋められた。りんごの木という何故かほのぼのとしたイメージと、育晴のどっしりした体とが、私の脳裡で妙にやさしいハーモニーを奏でていた。

古い馬達はぼつぼつと減っていったけれど新しい馬達も徐々に増えた。私と写真に写っているハーデイも数年前に六甲に来た。今の新しい厩舎が出来てない頃で、古

私が六甲山牧場の乗馬教室に通ったのは、数年前、高校二年の夏休みである。馬を知るという目的を主としたその乗馬教室は、当時馬の数が足りなくて、今でいうポニー（道産子）の車幹しんかんまで駆出され、大きな馬の後ろから一頭チビがついていて、おまけに私が乗った時など、厩舎に帰りがたって馬場の柵を折らないかと思うほど頑張っていたのを記憶している。サラブレッドのハヤテ、ホクリニウ、ハツヒメ、それから中間種の育晴、そして、先の車幹と、この五頭で教室を行っていた。今はもう、ここにあげた馬達はいない。一頭減り、また一頭減りと、この七月二十八日に、最後まで残っていた育晴が逝った。育晴——彼女はおとなしく、どんな物音にも驚かず乗手が初心者でもさぼることを知らず、安心して乗れる馬だった。四年前、神戸市動物愛護協会から、長寿動物表彰を受けた。その彼女が足を痛め、座ったり、立ったりの



秋深まる六甲山牧場には乗馬を楽しむ若人の姿が多い

い厩舎に入れる所がなく、少し下った所にある別の厩舎にクモミネという馬と入れていた。誰も乗っていない頃から青草を刈ってやりに行ったりしたせい、少々嘔吐癖もあるけれど、私は何故か彼に愛着を感じる。

二年ほど前、私はハーディから落馬した。彼は今でもよく跳ねる。その時も速歩を出したところぐらいいだった。私のつけていた拍車が当たったせいか、ともかく後ろ足を跳ねた拍子に、私は落馬した。下手な落ち方をしたもので、丁度、胃の裏あたりの背中を強く打って、情ない事に、声も出ないほど痛かった。ふと見上げると、ハーディ

イが振返って『このバカが簡単に落っこちた』という目をして私を見つめていた。数人の人達に担がれて、馬場の外のベンチで一休んだ。でも、あのハーディの目がチラチラと思ひ浮んできたら何だかしやくにさわってきて「私、乗ります」と言って、私は再び騎上の人となった。もう走らせず、並足でゆっくり歩いた。落馬して背中痛かった私にとって、厩舎から馬場に降りる坂道を、ハーディの背に揺られて登ったのは、却って楽だったと思う。翌日、乗馬センターの木下先生に紹介していただいた外科に行った私の背中では、背骨のつなぎ目の軟骨がびよこんと飛出していた。それからと言うもの、とにかくハーディだけは何とか乗りこなすようになりたいて、乗りこなすという大げさというものでなくても、せめて、そう簡単に落馬しないようになりたいたいと思い、何故かハーディばかり乗り続けている。

乗馬していて牧場の羊が柵の周囲の草を食べに降りてきたり、野生の雉子がいたりするのも、六甲山牧場ならではの光景だと思ふ。

今いる馬達が各々に元気で長生きして欲しいと祈りながら、本当に大切に乗って行きたいと思っている。





＜21＞

秋

わたしたちを実りたい

淀川 長治

△映画評論家▽

九月二日、国立劇場で待ちかねた「京劇」をついに見た。この日は⑧プログラムで「野猪林」「三岔口」「秋江」「拾玉镯」「水漫金山」であった。

これは二十三年前にも見たし、そのあともまた見た京劇の自慢の作品ぞろいだけにいま見ても面白かったし酔わされた。しかし十何年間というあいだ中国はこの京劇を禁止していたので、やっぱりその中止期間が京劇のねばりをうすめている。

最初に京劇を見たのは神戸の聚楽館だったと思う。梅蘭芳（めいらんふあん）の「天女散花」の美しさにびっくりした。

この梅蘭芳はすでに故人となったが東京の歌舞伎座で見た彼女の「貴妃醉酒」は絶品であった。

こんどは⑨を最初に見たのだが④の「孫悟空」、⑤の「霸王別姫」も見る。すでに切符は一カ月前に買った。中国がいかに立派な国かを私は京劇を見たことでつくづく身にしみて悟った。

映画や演劇というものがその国の国柄を知らせてくれる。日本の歌舞伎や

文楽が外国に巡演して、外国人は日本の芸術に今さらに驚いている。

×

ところで東京では



「京劇」のパンフレット

「木靴の樹」（イタリア）「旅芸人の記録」（ギリシャ）が岩波ホールでヒットして「旅芸人の記録」は連日札止めで切符を手に入れるのに客のほうに苦勞している。しかもこれは三時間五十二分の長篇である。

よく昔、聚楽館などで「イントレランス」や「シビリジェーション」などが特別興行され入場料は一般の倍ちかい高額であったが客はつめかけた。少年の私は「シビリジェーション」などは半分眠ってしまったのだが、きびしい反戦映画のことはだけはかすかに記憶している。見たときは眠らなかったが、あとでその映画の品格をあらためて感じるということもある。

大正時代は明治文化が花をひらき実をみのらせた時代。そして今ようやく日本はほんの少しその時代に近くなってきたという気もするのである。本物のぜいたくは感覚教養を身につけてから本物となる。

×

映画は一日一日とみがかれている。私などはことごとく昔の映画はよかったと口ぐせのようにいう。しかし、それはまさに今日的感觉からずれているのである。

京劇、文楽、歌舞伎、それらは昔の原型をゆたかに守ることで使命をはたす。だから近松や南北をやたらと新解釈して映画がモダンぶるのは罪悪である。

×

けれども表現の仕方を新しい映画感覚でこころみるのは映画のひとつの楽しさでもある。



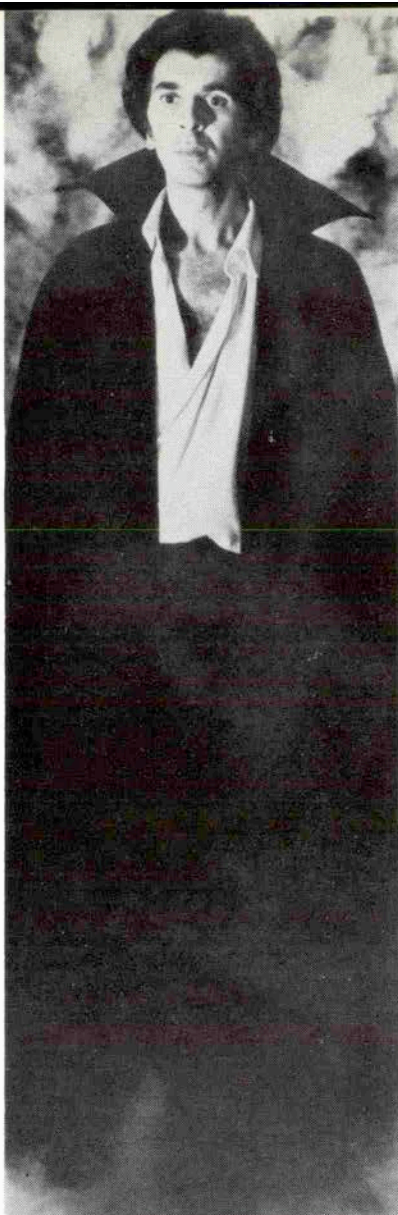


「ルーツ2」  
トムには女の子が生まれた。

つてこのクラシックの作品をそこねることなく月のすば  
やい移動で怪奇のムードを出した。

×

こんどテレビの「ルーツ」が「ルーツ2」を放映する。  
テレビは映画とちがってもっと一般にわかりよく話しか  
ける。わかりよくということでは芸術味を失うがテレビの  
使命は(わかってもらおう)ことにある。この「ルーツ2」  
は前回のチキン・ジョージからつづき、ついに原作者  
アレックス・ヘイリー(ジェームス・アール・ジョーン



フランク・ランジェラの  
「ドラキュラ」

「旅芸人の記録」は疲れた旅芸人の一座がもくもく  
と道歩いてるうちに一九五二年の秋が同じ画面の  
まま一九三九年の秋に変わってしまう。そのもくもくと歩  
く一座の足どりに十三年間このように歩きつづけたのだ  
という無言の抵抗と忍耐がこれでよくわかってくる。

フランク・ランジェラ主演の「ドラキュラ」(一九七  
九)を見るとそのタイトル・バックは満月の夜の丘の上  
の古城である。そしてカメラがその古城を遠景でとら  
えながら急速にそのカメラを左から右へ回すと古城の  
左の空に浮かんでいた月がスーッと走るように右へ移動  
した。雷鳴や狼の遠吠えのまえに静かなこの夜の古城と  
満月、これがこんどの「ドラキュラ」に新しい感覚をも

ズが演じる)の登場となるのだが、その彼の少年のころ父  
とドライブ中に小便がしたくなり白人のガソリン・スタ  
ンドでトイレをかりようとした。ところが白人は黒人に  
トイレを使わせなかった。そこらの木の影でやれ、しか  
しそこもわしらの土地だから小便代は払えといわれる。  
これは一九三二年(昭和七年)のころである。

×

京劇、歌舞伎、文楽でクラシック芸術を、映画で今日  
の感覚美学を、そしてテレビで(あらゆる)知ること。  
私たちはこれらのことをおろそかにしては常識と美学精  
神の枯れた貧しさだけが残る。

# 女体百景

細川

董たか

△文とえ／哲学者▽

86

## セックス・フレンド

まだ独身の彼は、神戸の山手のマンションに一人住まいである。仕事は彫金。仕事柄、ガールフレンドには事かかない。

その中にはセックスフレンドも何人かいる。というより、男前の日本人離れた彼のムードに、大抵のガールフレンドは自然とセックスフレンドに移行して行ったのである。

或る日、イギリス人の昔のガールフレンドが訪れて来て、ちょうど彫金を習いに来ていたセックスフレンドと鉢合わせになり久しぶりに話し込んで帰れなくなり、とうとう彼をはさんで三人でベッドインすることになってしまった。セックスフレンドの彼女も

「いいわよ。いっしょに寝ましようよ」

など何疑わず、シヤアシヤアとイギリス女を同じベッドへ招き入れ、日本人の遠慮深さから何くわぬ顔で彼の手を握りさえせず静かに寝てしまった。

すると、その時、彼の胸元へ一本の手が伸びて来た。△寝たはずなのに。まさか？と疑ったのもつかの間、手はどうもイギリス人のガールフレンドらしい。

手はしばらく彼の乳房を愛撫していたと思うと、だんだん下の方へ下りはじめたのである。

彼は寝込んでいるセックスフレンドの彼女が起きはしないかと声もたてられずイギリス女のなすにまかせた。

むしろ嬉しかった。彼女は積極的だった。傍に、日本女が寝ていることなど頓着なかった。女は

あつかましい。彼も独り身。

据え膳食わぬは、何とやら……。

翌朝、外国女が帰ってから、

「ゆうべはごちそうさま」

と、眠りこけていた日本女に、皮肉をいわれた時は冷や汗をどっとかいたものだ。バレていたのだ。

スラリと伸びてよく発育した外国女の下半身。巾狭くもり上った胸と尻。生れながらの長いまつげと青い瞳。

さわやかに波打つブロンド。抜けるように白い肌。

ねばっこくからみつく豊かな分泌液とその芳香。

外国女のバイタリティーと積極さ、大胆さ。

謹しみ深いはずの英国娘の夢など、イッペンに吹っ飛んでしまう迫力だった。

小さくて可愛いといえはそれまでだが、陰湿でやせて栄養不良でちんちくりんで、根性のひんまがった、日本の小娘がその時いかにも貧弱に思えたことか。

寝ているフリをし続けて、自分のセックスフレンドの外国女との情事を、息をひそめて観察しつつづけた日本女の忍耐を思うと彼は衰れささえ覚えて来た。

たかが、セックスフレンドではないか。何故その時ムックと起きて英国娘を追い出さなかったのか？やはり日本娘のプライドが許さなかったのか？

それはそれとして、外国女を送り出してから後の、彼女の求め方は普通ではなかった。昼間だというのに。こんなんだったら、夕べ、国際的なトリブルプレイを



してくれたらよかったのに。

しかし、それを求めるのは夢の話かもしれない!

今直面している現実を一つ一つ片付けていかねければ。彼は昨夜使い果した力をふりしぼって、辛抱強い忍耐の女のプライドのために必死で協力したのである。

最後の一滴までしぼりとられる、というのはこういうセックスをいうのか。いかに独身とはいえ腰も使いすぎではだめになるものだ。

悶え、快感を何度も味わいつづけているセックスフレンドが、満ちたりるまでおつきあいすることは大変である。彼女も大した女に成長したものだ。

彫金を習い始めた頃の彼女は彼に求められる度に痛がっていた固い固いつぼみだったのに。

最後に、彼女がエクスタシーの波をかぶる時、とうに果てた彼は必死で協力したのだが、それはもう、ほんとうに全身の力をふりしぼるといった形容が当てはまるものだった。事が終って彼女は

「お腹へったわね。何か食べたい?」

といった。もういつの間にか、外は暗くなって来ているのだからお腹がへるのも道理だ。激しいスポーツだった。しかし、彼はあまりしつこいものはのどを通りそうになかった。

「ゆうべの寿司屋へいこうか? うまかったじゃない?」

と気嫌なおしと思っぺんちゃらを言った。「ええ、いいわ」二人は、三宮の山手の、とある寿司屋のカウンターでお好み寿司に疲れをいやした。

「お寿司は何度食べてもおいしいわねえ。夕べはごちそうさま」「え?」

まだ彼女は、英国女のことを皮肉っているのか?

「何いってるよ。夕べもここでごちそうになったじゃない。今日は連続二晩目よ。わたし、夕べお寿司ごちそうになってる夢見ちゃった! ほんとに夕べはよく寝たわ」

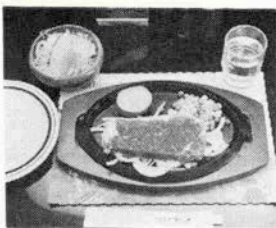
「え?」「あなたは?」

「いや……その……もちろんよく寝たよ」



定食。

★この物価高にナント  
¥1200でステーキが！  
元町のNEXT ONE  
は近頃ランチタイムが超満  
員！それというのも、ジャ  
ンボステーキがこの物価高  
の時節に¥1200という  
安さだからです。



ジャンボステーキランチ

160gのジャンボステ

ーキにミックスペジタブル  
オニオン、ベークドアイダ  
ホポテト、それにロックフ  
ィールドのドレッシングが  
かかったコールスローサラ  
ダと御飯（写真参考）  
店長の中根さんも「安く  
て、ボリューム満点！大好  
評です」とすずめる自信の

耳よりなニュースは土曜  
日に限り¥980とデイス  
カウント！一度試食してみ  
る価値があります。

■元町通2丁目 番332・2340  
11AM~8PM 日曜・祭日休

★ティファナーの玉利さん

本場メキシコへ「留学」  
メキシコ料理と音楽の店  
「ティファナー」のマスタ  
ー、玉利茂樹さんが去る8  
月24日、メキシコ旅行に発  
った。それを前に20日、開  
店10周年と、新ロス・ティ  
ファナーナ結成1周年の記念  
を兼ねてパーティを開催。



再現された玉利・新開コンビ

約七十人が集まり、同店は  
超満員。現在大阪でメキシ  
コ料理店「アステカ」を經  
営する新開賢介さんもお祝

いにかけて、玉利さんと  
のコンビを再現し、あの懐  
かしの歌声を聞かせた。

玉利さんは三カ月の予定  
でメキシコへ。本場の料理  
と音楽を勉強して、今後の  
ティファナーの店づくりに  
頑張ります」と話している  
ティファナー 中山手通2丁目  
パ  
ールポラス1F  
番24210043

★m・m・Join

満二周年

いつも楽しい音楽が流れ  
る「m・m・Join」が  
満二周年。これを記念して



熱演するトリオ

去る9月8日、日本唯一の  
ジャズハープ演奏者・林忠  
男、ドラムの猪俣猛、ベー  
スの荒川康男を迎えて特別  
コンサートを開催した。熱  
演するトリオに、途中、小  
曽根実さんのハモンド、江  
藤嘉昭さんのフルートも加  
わり、満員のお客さんを魅  
了。またこの模様をラジオ

関西が収録、放送した。

m・m・Join 生田区中山手通

1丁目 富士産業ビル2F

番222153114

●神戸うまいもん  
とドリンキング

スパゲティ専門店

壁の穴

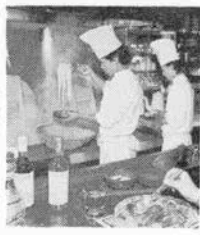
元町店 元町三丁目バルパロ

13F

三宮店 三宮サンロイヤル10F

番33214551

スパゲティと一言でい  
つてもゆで加減、味加減  
で随分違うもの。本格ス  
パゲティを追求している  
（つまりゆで加減はアル  
デンテ、メニューも多種  
類）壁の穴が、元町三  
丁目バルパローレ2階に  
10月2日オープンした。  
ぐらぐら湯が煮えたき



っている大釜に、注文を  
聞いてからスパゲティを  
入れる。ゆで過ぎの、鯉  
鮎のようなパスタに出会  
う心配はここではまずな  
い。元町ジョッピングの  
途中に本物を食べたい人  
が大喜びの店である。

スパゲティメニュー

若者のアイドル655円あさり

コース149円他

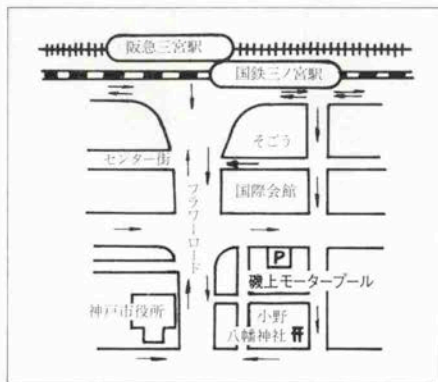
1150円他

各国ワイン特製ワイン

営業時間11AM~9PM

三宮店は第1・3月曜休

ビジネスに、ショッピングに、  
三宮で一番便利な  
自走式立体モータープールです



- 収容台数300台
- 月極 駐車可
- 年中無休  
(8:00AM~11:00PM)

## 磯上モータープール

(神戸国際会館前)  
TEL (078) 251-7873

## 船上Party

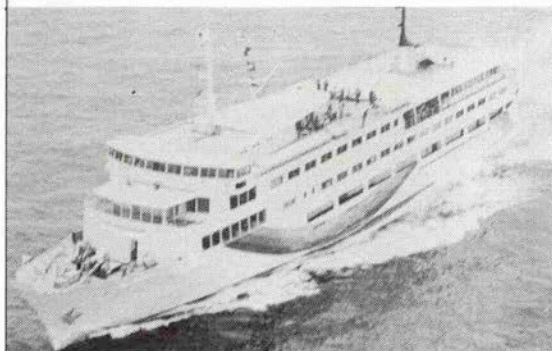
10月27日(土) 4:00~9:00PM

洲本・大阪湾一周

こはく丸

(中突堤4:30出港・8:00帰港・8:30下船) (関西汽船3000トン)

会費 1万円 ご参加をお待ちしています



夕陽が沈む瀬戸の海に向って……せまりくる六甲の山々、いつの間にか星が光り百万ドルの神戸の夜景は手の中で輝いてしばしの船旅にボン・ボヤージュ!

### SHOW

大人の歌をじっくり聞かせてくれるダークダックス。そのハーモニーは心よい酔いの世界にさそってくれるステージは三回行なわれます。

### BAZAAR

パリのサントノール、ニューヨークの五番街といったブロムナードがこはく丸の船上に……。毛皮は種類の多さとデザインの豊富さがお気に召していただけでしょう。

### WINE

本場フランス・ボルドーワインをお楽しみください。

### SAMBA

神戸っ子サンバチームで陽気に楽しく踊りあかしましょう。船上はもう琥珀色のリズム一色!

お問い合わせ  
お申し込みは

月刊 神戸っ子

(331)  
2246

# Hat dog



なんすい  
**軟水のCoffee  
味、また格別。**

営業時間 午前10時～翌午前2時



コーヒーハウス  
**ハットドッグ**

バス停《中山手1丁目》南側角  
☎ (078)321-1689

豪華さとくつろぎと本物の味



ハイセンスな神戸っ子の憩いのオアシス  
気品ある雰囲気のなかでおくつろぎください



喫茶館  
**仏蘭西屋**

三宮・フラワーロード（神戸市役所前）  
TEL 078-232-4643